

第二回世界都市農業サミット推進委員会 会議録

開催日時：平成 29 年 1 月 11 日（水）09：30～11：00

会場：練馬区役所 19 階 1903 会議室

1 開会

委員長

- ・ それでは、定刻になりました。まだお見えでない委員の方いらっしゃいますが、遅刻とのご連絡もいただいておりますので、始めさせていただきます。
- ・ 第二回世界都市農業サミット推進委員会ということで、本日は 11 時までの予定にしてございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・ お手元に次第がございますが、最初に、世界都市農業サミット開催計画の概要・案につきまして事務局よりご説明いただき、その後意見交換となっておりますが、特にこういったことをお話しいただくといったシナリオがあるわけではないようですので、ご説明いただいた開催案に基づきまして皆様方よりご意見を頂戴するという形にしていきたいと思っております。
- ・ 多くの委員の皆様方に本日お集まりいただいておりますので、ぜひ忌憚ないご意見を積極的にいただければと思う次第でございます。

事務局 都市農業課長

- ・ 事務局を務めます都市農業課長です。よろしくお願いいたします。
- ・ 本日お手元には、世界都市農業サミット開催計画（概要・案）、推進委員会委員名簿、第一回推進委員会の議事録をお配りさせていただきました。ご確認のほどよろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 世界都市農業サミット開催計画(概要・案)について

委員長

- ・ では、早速議題のほうに入ってまいりたいと思います。
- ・ 「(1)世界都市農業サミット開催計画(概要・案)」について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局 都市農業課長

- ・ それでは、「世界都市農業サミット開催計画の概要・案」、こちらの資料に基づきましてご説明申し上げます。世界都市農業サミットをこのような形で開催したいということで、区としてまとめたものです。
- ・ 1ページ目をご覧ください。「はじめに」ということで、いま、なぜ、世界都市農業サミットかということですか。かいつまんでご紹介申し上げます。近年、世界の各都市において、都市における農業や農地の役割、そして魅力が見直されています。農業への関心が高まるとともに、さまざまな取組が進んでおります。例えば、世界の流行の発信基地であるニューヨークでは、若いOLが帰宅後に自分の畑で野菜を収穫する、そういったライフスタイルが出ています。また、ロンドンでは2012年に開催したオリンピックを契機に、市民農園、コミュニティガーデンを2,012カ所開設するという目標が掲げられました。結果は2,500カ所を達成するという事になっています。2,500カ所の市民農園には、規模は小さいものから大きなものがありますが、こういった形で都市の中で農業と関わる取り組みが、世界各地で進められている状況にあります。
- ・ 国内では、平成27年4月に都市農業振興基本法が制定されました。都市農地は宅地化すべきものから、都市にあるべきものと位置づけられ、大きな政策転換が図られています。そういった中で、練馬区では、世界の首都、大都市東京にいて、市民生活と融合した農業が営まれています。都市の中に農地が存在し、農業が産業として営まれている、プロの農家が活躍しているということは、世界的に希有であることが、調査をすればするほど気づき、わかっているところです。この意義は極めて大きいと考えております。
- ・ 農産物の供給や防災、環境面等の都市農地の多様な機能をももちろんですが、これからの都市における市民生活をさらに豊かにする可能性を都市農業が秘めていると考えています。そこで、農業が融合する都市の魅力と可能性について、国内はもとより世界に発信するために、このサミットを開催いたします。
- ・ このサミットでは、参加各都市が都市農業の意義と魅力を共有し、相互に学び、新たな取り組みを探り、そしてそれにより都市農業の発展につなげていきたいと考えております。
- ・ 次に、2ページ目をご覧ください。開催のねらいについて、3つにまとめました。1

点目は、「都市農業の存在意義や魅力に関する認識が世界で共有され、都市農業の今後の発展につながること」です。国内外の都市農業に関わる人たちが、都市農業の役割や魅力、取り組み内容を発表、意見交換し、相互に学び合い、また今後の都市農業や都市のあり方についてともに考え、新たな取り組みを議論し、都市農業の今後の発展につなげていきたいと考えております。2点目は、「都市農業に関するネットワーク化と情報共有が進み、新たな取り組みが広がること」です。このサミットを契機に、都市農業に取り組む都市や人が相互につながり、そして情報交換等を通して世界の取り組みを学び、新たな取り組みを広げていきたいと考えています。3点目は、「都市農業に対する誇りと意欲が高まること」です。都市農業の意義や魅力を共有し、広めることで、都市農業に携わる人や農のある都市で暮らす市民などの都市農業に対する誇りや意欲をさらに醸成していきたいと考えております。

- ・ 続いて、開催概要についてです。3ページをご覧ください。このような形で開催したいと考えているものをまとめたものでございます。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、国際気運が高まる時期、そして農産物が豊富で農にちなんだ多くのイベントが実施できる時期に開催したいと考えています。具体的には、平成31年、2019年11月29日からと考えております。会場は、駅近接の1,000人以上のホールを有する練馬文化センターをメイン会場と考えております。また、隣接するココネリホールと区内の農地についても、会場としたいと考えております。
- ・ 内容についてです。シンポジウムと分科会を開催するほか、区の都市農業の視察、体験を実施したいと考えています。また、区内各地でマルシェ等の農に関するイベントを実施いたします。
- ・ 11月29日の午後、まずは、練馬の都市農業を体験、視察していただきます。そして、11月30日の土曜日午前中は全員参加型の体験イベントとして、例えば練馬区では練馬大根の引っこ抜き競技大会を以前より開催しているほか、そのほかさまざまなイベントを開催した実績を有しておりますので、そこで培ったノウハウや経験を活かしながら、全員参加型の体験イベントを考えたいと考えております。午後は分科会のほか、取組の紹介、議論等を考えております。そして、3日目の12月1日(日)には、シンポジウム形式として事例発表、パネルディスカッション、そしてサミット宣言をし、都市間の連絡体制の整備等をできたらいいのではないかと考えております。次の日は、希望者向けのオプションを実施できればと考えております。
- ・ 4点目は、招聘候補都市についてです。4ページ目をご覧ください。招聘します都市は、都市農業について特徴的、積極的な取組を行っている都市といたします。サミットにおける意見交換等を効果的に行うために5都市程度とし、各都市からは、行政関係者、農業者、関係団体、研究者から2～3人ずつの招聘を考えています。
- ・ 現時点での有力な招聘候補を挙げております。まず、ニューヨークです。人口は800万人を超える世界有数の都市です。ルーフトップファーム、例えば屋上緑化や、未利

用地を再生した農地を生かしたライフスタイル、そういったものも流行しています。選定の視点としては、新たな流行に敏感な層、若い人や女性といった層が都市農業に関心を持ち、新しいトレンドとして浸透しているところに注目をしております。取組主体やメディア、そして行政の対応等から、新たなライフスタイルとして浸透した要因を知るとともに、その広げていく手法を学び、これから都市農業の関心層を広げていく上での示唆を期待するというものです。今のところ都市農業に関心がない人たちに対して、どのようにアプローチしていくか、その点に関する示唆を期待しています。

- ・ 次に、ロンドンです。人口 800 万人を超える都市です。先ほど、「はじめに」の部分でも申し上げましたが、オリンピック・パラリンピックを契機に都市政策が動いています。選定の視点としては、大都市の限られた空間の中で市民農園数を急激に拡大させた点があります。また、官民協働で所有形態や規模の多様な場所を農地につくり変え、コミュニティを形成していくという手法が学べると思っております。今後、農地を核とした新たなまちづくりを進める上での示唆を期待しております。さらには、オリンピック・パラリンピックを契機として、市民が一体となって取り組む気運づくりについても参考となると思っております。
- ・ 三つ目は、インドネシア・ジャカルタです。人口は 960 万人、規模、密度とも特別区と大変類似しているところです。農地を含む緑地を全体の 3 割確保というように、都市内の緑地を確保することを政策目標に掲げています。選定の視点としては、開発途上にあるアジアの大都市で、政策的に都市農業の役割を位置づけるとともに、都市の中で残った農地を活用し、限られた空間の中で農地を創出する取組が行われていることに注目しております。また、プロの農家のほかに、女性や若者等が関わっています。ジャムの加工チーム等の草の根的な動きも広がっています。地縁型コミュニティを基盤とした都市農業に多様な層が関わっている点も注目できるのではないかと考えているところです。
- ・ 次に、候補都市として現在調査を進めている都市について、選定の視点についてのみご案内申し上げます。この候補都市から、残り 2 都市程度を選定したいと考えております。選定の視点としては、まずは新しい都市農業への示唆を得られるかどうかです。消費者に近い立地特性を生かして多様な事業を展開する事例や持続的な農業経営に示唆を与える事例があるかどうかということです。二つ目は、新しい都市像への示唆を得られるかどうかです。都市農地を社会資本としてまちの形成に影響を与えている事例があるかどうかです。そして三つ目は、新しいライフスタイルへの示唆として、都市農業の関心層を拡大させている事例があるかどうかです。市民ニーズに応じた多様な都市農業を展開している事例はあるか、このような視点で今後の調査を進めていきたいと思っております。
- ・ 8 ページをご覧ください。サミットに向けた区民等の気運を醸成することと招聘者の練馬の都市農業への理解の促進のために、サミットの前年である平成 30 年、2018 年

にイベントを実施したいと考えております。

- ・ 日程については、平成 30 年 11 月を考えております。まだ日にちまでは詰めておりません。会場についても今後検討していきます。
- ・ イベントの内容は、区民等が都市農業の魅力や現状について理解を深めてもらえるように、1 日目には国内の都市農業関係者、有識者によるシンポジウムの開催がいいのではないかと考えております。また、2 日目については、サミット本番の招聘者に練馬区の農業を視察いただき、国内外農業関係者と有識者等を加えて、サミットにつなげていける意見交換ができればと思っております。
- ・ 9 ページをご覧ください。市民参加の推進についてです。このサミットは、準備の段階から多くの市民の皆様の参加を得て開催したいと考えております。一つ目は、ボランティアとの協働、通訳スタッフの活用です。現在、区には登録通訳ボランティアという制度があります。こちらの皆様を中心に、サミットの開催のときに協働する通訳スタッフを募集したいと思っております。都市農業に関する講習を実施し、農業関連の専門分野についても話ができるスタッフとなっていただき、一緒に力を合わせていけたらと考えております。
- ・ 二つ目は、招聘都市ごとのチームを編成することを考えております。通訳スタッフ、農業者、その他関係者による招聘都市ごとのチームを編成したいと思っています。例えば、チームロンドン等です。招聘者が来日する前から、各都市をサポートできる体制を準備し、滞在中も行動を共にする形で進めていけたらと思っております。
- ・ 次に、学生や農サポーター等の区民に、サポーターとしてサミットの開催時に従事していただきたいと思っております。
- ・ 大学、企業、飲食店、商店街との連携、そして農業者や農業関連団体との連携については、次回以降の推進委員会でご議論いただけるよう調査、検討を進めてまいります。
- ・ 本日の段階での開催の概要・案をご説明申し上げました。現在の開催概要について、今後肉付けしていきたいと思っております。
- ・ 説明は以上です。どうぞよろしく願いいたします。

(2) 意見交換

委員長

- ・ どうもありがとうございました。議題の世界都市農業サミット開催計画の概要案についてご説明いただいたところであります。
- ・ 時間的には 1 時間程度とり、皆様方よりご意見、ご質問等をいただきたいと思っております。ただいまご紹介いただきました概要・案に対する個別のご質問ということでも結構ですし、あるいは「もっとこういう点を盛り込んでほしい」とか、「もっとこういうことが必要ではないか」等、こういったご質問、ご意見でも結構でございますので、ぜひ活発にお願いできたらと思っております。せっかく本日は多くの皆様方にご出席いただき

ておりますので、ぜひ少なくとも一言お願いできればと思います。反対に、これだけの皆様方に一言ずつですと、1時間という制約がありますので、お一方ご発言いただける時間がある程度限られてしまいますが、ぜひ活発にお願いしたいと思います。

- ・ いかがでしょうか、どこからでも結構でございますので、よろしく申し上げます。

委員

- ・ 世界都市農業サミットに関する概要をご説明いただきまして、練馬文化センターをメイン会場として、練馬区が発信していこうとしているわけですが、例えばイベントに関しては練馬文化センターを利用したとしても、世界都市農業サミットの本番に関しては、東京国際フォーラム等のまさに東京のメインとなる会場で行い、周辺でマルシェを開催し、そこから移動しながら都市の景観を眺めつつ、例えば練馬区の農地を見ていただくことがよいのではないかと思います。メインとなる会場は、東京の国際フォーラムといったような場所を使うというのはどうかと思っています。

委員長

- ・ 事務局、いかがでしょうか。

事務局 都市農業課長

- ・ いろいろ考えました。一番は、練馬を見てほしいと考えております。また、移動時間も有意義に過ごしていただくため、練馬を会場としたいと考えております。現段階では、ご意見としていただきます。

委員長

- ・ 参加者を含め、メッセージを発信していく先としてどのあたりをターゲットにしているかにより、会場も変わってくるのではないかと。ご意見はごもっともであり、私もできることならそっちの方がいいという気も致しますが、事務局の方でも検討いただければと思います。ありがとうございます。

委員

- ・ 開催の狙いからすると、サミットは発展につながる新たな取組となり、生産者やそこに住んでいる人も誇りと意欲を持てることに繋がるということですので、開催期間は3日ではありますけれども、サミット本番に向かって取り組むことについては、何に取組んでもよいのではないかなと開催計画を見て思いました。
- ・ 一番怖いのは、サミットの係で携わっている一部の人だけが盛り上がり、その周りがなかなか盛り上がらないという事態が一番問題であると思います。その人なりの立場の中で、都市農業サミットの中にいかに関わっていくかというようなアイデアやプラ

ンみたいなものをどんどん盛り込んでいくということをしていかなければいけないと思います。3日だけで終わるのではなく、都市農業というのは延々と続くわけですから、そのような視点にたつと、日々の取組の延長上にサミットがたまたまあったというような運動や活動にしていきたいなと思っています。幅広い形のアイデアみたいなものをここに盛り込むことや、我々もいろいろな人から話を聞いてそれをこのサミットの中に取り込んでいくことが必要ではないかと思っています。その辺のアイデアは、我々からもどんどん提案していかないといけないと思います。

委員長

- ・ 事務局としてどうでしょうか。そういうアイデアをたくさん出していただきたいと思いますが、その辺どのようにお考えですか。

事務局 都市農業課長

- ・ 先ほど、本日の段階では開催概要9ページのプレイベントに関する会場や内容についてはまだ詰め切れていないためお話しできませんでしたが、特にここに向けた取組をどうするかということについては、第一回推進委員会でもいろいろなご意見いただきましたが、それを形にしていかなければと思っています。形にするに当たっては、委員の皆様、ほかに携わる皆様のご意見をいただかないことには、進めません。いただいて進めることを事務局としても望んでいます。このため、個別、具体でお伺いすることもありますし、また、こういった中でご発言いただいたものを形にできればと思っております。

委員長

- ・ せっかく貴重なご意見を頂戴しても、それを受けとめる体制ができてなければ、蔑ろにすることになり、結果的には非常に機運を下げてしまうことになってしまう。ご意見いただく以上は、それをちゃんと受けとめられるような体制を早急に整える必要があるのではないかなと思います。

事務局 都市農業課長

- ・ わかりました。心して進めてまいります。ありがとうございます。

委員

- ・ タイトルが世界都市農業ということで、練馬区、あるいは東京の都市農業だけを語る場ではないと思います。このため、招聘都市やその他のさまざまな国では、さまざまな目的で都市農業が行われていると思いますが、そういった点に関する情報を逆に我々にインプットしていただける場を、例えばこのサミットの中で設けるとか、ある

いは事前にもう少し区民と関係者、招聘都市の方と交流する場を設けたらいかがかなと思います。その辺についてどう考えているか、教えてください。

事務局 都市農業課長

- ・ 実際に、この4日間のプログラムについては、それに向けた動きということで、これから深掘りしていく段階にあります。ご意見いただきました件、考えてまいりたいと思っております。

委員長

- ・ 恐らくプレイベントを中心として、やや突っ込んだ意見交換を行うことが必要ではないかと思います。こちらが招聘都市の農業の実情を知り、また招聘する方々に、練馬ないし東京の実情を知っていただき、お互いの情報や状況をよく理解し合うということが、恐らくプレイベントにおいて一番重要な取組になるではないかと思います。

委員

- ・ 基本的にちょっと知りたいのは、開催の比重が練馬区なのか、都市農業なのかというのがすごく曖昧と感じます。もし都市農業のサミットを考えるのであれば、例えばほかの区の農業従事者や事例等について、主に都市でやっている方のネットワークみたいなものを利用することも考えられます。一番思うのは、区内にある3つの大学のどこにも農学部がないのです。例えば、農業系のことを学んでいる学生を動員し、学生のネットワーク等を活用していくほうが、自然にこの内容に近づくと思います。お話を聞いていると、練馬区でやるということがすごく中心にあるように感じます。練馬区が優先するのか、都市農業が優先するのか、今のところわからないのですが、そこも教えていただきたいです。

事務局 都市農業課長

- ・ そうですね。私ども練馬区でサミットを開催しようと思立った理由は、まずは23区で最大の農地面積を持ち、そして最大の農家さんがいる都市であり、こういった都市の中に農地が入り込んで、区民の皆さん、市民の皆さんとの生活と融合して都市農業があるという姿はなかなかほかでは見られないという状況がありました。もちろんそういう状況はこの近辺はあります。ただ、23区、これだけの規模、72万の都市の中でこれだけあるということについては、区としては大変自負しているところであります。
- ・ 東京都に市街化区域内農地を持つ自治体が38あり、私どもではそちらをまとめている都市農地保全推進自治体協議会をつくっています。農地を残すという形で法制度がないということのを何とか打破したいという思いでつくった協議会ですが、協議会を進め

ていくうちに、やっぱり法制度の改正だけではない、都市の中に農地があり、農業者がいること、そしてそれと区民の生活がつながっていることがどんなにいいかということ私ども都市として発信したいと、そんな思いでこれは始まりました。

- ・ もちろんその 38 自治体の皆様との協力、例えば川崎市や横浜市とは仕事の関係で繋がりががあります。そういった繋がりを持ちながら、都市の中に農が生きるまちとしてこれを発信したいなと、まとめたものです。
- ・ もちろん農学部がある学校、例えば川崎市や世田谷区、あとは先生方をお願いしていますが、そういった形の連携を私どもも望んでおります。これを進めながら、いろいろな皆さん、学生さんの力、知恵、そんなものも生かさせていただいたら意義があるなと考えているところです。検討を進める中で発案していけたらと思っております。

委員

- ・ 前は欠席で、本日も電車の遅延で大幅に遅れまして、申し訳ございません。初めてなので筋違いな点あるかもしれませんが、今までのお話を聞いていると、世界都市農業サミットという看板でやる以上、現段階でも周辺の区市に対してどのくらい働きかけているのかという点が開催概要から見えてこないです。仮に今のまま練馬と世界ということであるならば、世界都市農業サミットという名称自体が皆さんに誤解を与えるのではないかと思います。予算の問題など難しい点もあると思いますが、少なくとも周辺区市と連携した取組にしていってもらうことを要望したいと思います。

委員

- ・ 今のご意見はそのとおりだと思います。今回、都市農業振興基本法という法律ができ、都市の中でも農地があって当たり前だと国に認めていただきました。東京で都市農業というのは当たり前だと思うのですが、都市農業というのは、市街地及びその周辺という定義がありますので、できれば本当に三大都市圏だけではなく、地方の都市農業や市街化区域にこれから農地がしっかり残っていくことが大事だということについて、その見本が練馬にあるという意味では、もう少し間口を広げてもらうことがいいと思います。さらに、そこに世界の中でもこういう大都市の中に農業があるということをも日本の農業者にしっかりと理解してもらい、あるいは都民に理解してもらいという意味で、私はすごくこの取組に期待しています。
- ・ ですから、東京の農協も一緒になって全面的に協力させていただき、都市農業の重要さというのを一緒に推進していければいいなと思っております。大変ですけれども、みんなで頑張りますから、ひとつお願いしたいと思います。

委員長

- ・ ありがとうございます。大変に心強いご意見いただきました。

委員

- ・ 大変不勉強で申し訳ないですが、23区内で農地が残っているのは練馬が一番多いという事はわかるのですが、次に世田谷あたりということで、実際23区内に農地がどのくらい、どういうふうに残っているのでしょうか。練馬に限らず、他区にしても、いろいろな形で農地を残していこうという考え方はさまざまあると思うのですが、その辺のデータを頂戴できないでしょうか。

委員長

- ・ 私が把握している限りでは、23区中外縁に立地している11区において、まだ都市農地が残っているというのが実態でございます。面積的には、練馬が突出しておりまして、それに世田谷ないしは杉並が続くというような状況です。
- ・ 練馬に関しましては、例えばオープンスペースという言い方をしますと、都市公園の面積とほぼ匹敵するか、もしくは上回る量の農地が残っています。それだけ残っているのは、やはり他地区にはございません。現在申し上げたものが、23区内における非常に粗っぽい概説ですので、ぜひその辺のデータを提供いただけますでしょうか。

事務局 都市農業課長

- ・ 23区、それから東京都の状況、市街化区域内の農地を持つ市区の状況について把握しておりますので、委員の皆様は資料にしてお送りさせていただいてよろしいでしょうか。

委員長

- ・ 次回までにご用意いただければよいのではないのでしょうか。

事務局 都市農業課長

- ・ そういたします。

委員

- ・ サミットというとさまざまなことを考えてしまうわけですが、要は練馬区や23区において、「我々の都市農業はこの様にやっています。皆さんのところはどうか」ということを理解し合う機会ということだと思います。
- ・ また、地方によく行きますが、地方では若い人はみんな都市に行ってしまうが、場所によっては戻り始めているということも聞いています。どこの都市農業でも後継者に悩んでいますので、その点を良く調べたり、他地域の人に聞いたりする機会となるといいと思います。最初から大きく広げてしまうと大変ですので、進めながら徐々

に他地域の取組を聞いていけばよいと思います。

- ・ 物を売るという視点に立った場合、例えば東京以外の遠いところから来て野菜を購入した場合、ものによっては傷んでしまいますので、包装資材についても考えなくてはいけないと思います。パリでは日本のイチゴがすごく人気で、1粒 1,000 円もの値段がついているそうです。それは、イチゴを輸送する際は1粒ずつ包装される形でぶつからないようにするという包装材を研究開発したことで、高級レストランでも使われているそうです。このため、消費者がいかに困っているかという点について、各国から解決策を学ぶことで、農業者の力にもなるのではないかと思います。
- ・ 更には、税金の問題もあります。相続対策で農地から宅地に変えて建物を建てている場合もあります。他国では、相続や税金の問題にどのように対応しているのかという解決策についても学ぶことができると思います。
- ・ このため、どのような面に注目してこれからサミットを進めていくかについて事務局には考えていただきたいと思います。

委員長

- ・ どうもありがとうございます。

委員

- ・ 簡便に書いてありますが、1回で終わってしまうのですか。それとも継続していくのですか。一回で終わってしまうのであれば、やり方は変わってくるのではないかと。

事務局 都市農業課長

- ・ 今のところはっきりしたお話は申し上げられませんが、2019年のサミットをきっかけに、都市との繋がりや区民同士、市民同士の繋がり、行政同士の繋がり、こういったものはしっかり作っていけるような体制を構築できればと思っております。この会としてどうするかということについては、現時点ではまだ白紙です。

委員

- ・ 将来につなげていきたいでしょう。

事務局 都市農業課長

- ・ そうですね。

委員

- ・ 今の話に少し関係するのですが、都市の農業を継続していくという提案ができる場面

が必要ではないでしょうか。例えば、都民あるいは市民も含めて巻き込んで広くしていくということも必要なんです、それが農家さんの負担になっていくようだと、余りいい方向にいかないし、後継者の方もやりたいと思わない。ですから、このサミットを通じて、そういったメッセージを発信できる場をつくり上げていくことが必要だし、サミットが目的ではなくて、発信をするということで次に繋げていければいいのではないかと思います。

委員

- ・ このサミットは、練馬区と世界各国の各都市を比較しながら、よい点を学び、今後の発展に生かしていこうという趣旨だと思います。しかし、都市農業と申しましても、非常に範囲が広く、都市計画から生産、後継者、また流通や食べること等、分野は多岐にわたるため、それを全てまとめてやってしまうと、かなり焦点がぼけてしまうのではないかと考えております。
- ・ ですので、2回しかありませんので、なるべく早く練馬区が思うテーマを3～4つほどに絞り、分科会形式で議論する方が、きちんとした筋道ができるのではないかなと思っています。

事務局 都市農業課長

- ・ 大変貴重なご意見でした。ありがとうございます。考えます。

委員

- ・ 都市農業サミットに期待する一人として、私も気になっております。本来、都市農業サミットと世界的に訴えるのであれば、農水省や国交省が中心となり、国として世界に呼びかけるというのが一つの考え方かと思います。もう一つは、世界都市東京として世界に呼びかけるという方法があると思いますが、これは相当実現には多くの道のりが必要であると感じております。本当は国や東京都が音頭取って開催していただければ、私らにとってはうれしい話です。しかし、練馬の中から生まれた一つのアイデアでもありますので、ボトムアップ型のような形で開催することにご理解いただき、それを広く捉えるのではなくて、この練馬あるいは東京のまちという中に一つのモデルを作る、または農のある都市づくりを現実の中に落とし込むということです。つまりは、「Think globally Act locally」という考えに基づき、ローカリーに当たる練馬区がその目標に向かって実現しやすく、手の届くところに課題がたくさんあるということです。東京都レベルや国レベルの場合、よりグローバルな話になってしまうと思う

のですが、農のあるまちが、区民の皆さんや農家、ご商売をやっている皆さんにとってもいいモデルになるということを発信していければということです。

- ・ 例えば、世田谷のようなまちと明らかに違う点がここに存在するというような形で、Act locally の中で世界に発信していき、それに対して東京都や農業団体、国のご理解をいただいてバックアップしていただけるような形が、一番現実的で望ましいのかなと感じています。
- ・ もう1点、先ほどお話があったように、持続性というのがやはり大事であると思います。世界的に広げていくという前提で、例えば、次の開催都市への根回しもどこかでしていくようなことがあってもいいのかなと思っています。長くなりまして、すみません。

委員

- ・ そのとおりだなと思っています。でも、この名前が世界都市農業サミットというところからすると、もうちょっと日本として、東京としての農業に関することも含まれていると思うため、その中の練馬、23区最大の農地面積を持っている練馬の一例という形であることを、サブタイトル等に盛り込み、例えば「世界都市農業サミット、23区最大の練馬から」等にする事で、一般の人が聞いたときに、サミットとまで言っているのに、練馬区だけという印象を受けてしまう方も今までの議論を聞いていても多いと思いますので、それを練馬から発信していますというようなことを少しでも入れることでもう少しシンプルに伝わるのではないのでしょうか。
- ・ あとは練馬としても、今ここで話しているようにもっと盛り上げていくべきだと思います。ねりマルシェをはじめ区内でよくマルシェを開催していますが、なかなか一般の人に伝わってないというのをすごく感じる時があります。区報に載っているかもしれませんが、区報見てない人は知らないし、いろいろなところでマルシェが頻繁に開催されているとは思いますが、その開催状況を知らないことも私もすごく多いです。そうではなくて、誰が見てもこのときにやっているというのがわかることが重要ではないのでしょうか。先ほどお話を合った市民参加の推進ということで、例えばどこの飲食店でもこの時期は一品でもいいから練馬の野菜使いましょう等も考えられます。開催期間だけでなく、その前段階からたくさんの人たちがどこに行っても見られるような形というもので盛り上げていくのは重要ではないのでしょうか。東京都内でやるのはなかなか難しいため、とりあえずは練馬でやりますよということを広く発信していけるような何かがあったらいいなと思いました。

事務局 都市農業課長

- ・ サブタイトルのいろいろな話も聞きました。なるほどと思っていますので、少し検討

させていただきます。ありがとうございます。

副委員長

- ・ 考えなくてはいけないことを提起されたと思います。しかし今回のサミット開催の目的は、練馬区が今まで先頭になって展開してきた都市農業の取り組みを振り返り、これらの日本の都市農業の取り組みは世界的に見たときにどのような意味を持っているのかを取り組んできた人たちが確認し、確信を持って次の段階に進んでいくステップにしたいということにあるかと私自身は考えています。準備会での議論もそのような位置づけの発言が多かったように思います。
- ・ 準備会でも発言致しましたが、サミットを契機に、練馬区の今までの展開を踏まえてこれまでの取組を次の段階へと進めていく動きとなる様にサミットの内容を具体化していくことが大切ではないかと思えます。
- ・ 確かに世界都市農業サミットという名前で開催するとなれば、さまざまな都市農業に取り組んでいる多くの都市の経験に触れ、また交流することで、次の問題を考えていく契機とするということも、国際会議とかサミットというもののあり方であり、そのような位置づけで開催することも考えられると思えます。
- ・ しかし、さまざまな人が集まり議論し交流することに大きな比重を置くよりも、サミットを契機に、あるいはサミットを目的にしながら、練馬の中で次の都市農業のあり方を議論し、その取り組みに向けて具体的に動き出すことも練馬だけでなく、次の都市農業全体にとって意味が大きいのではないかと思えます。
- ・ ただし、会議の内容、あり方を具体化する上で、考えなくてはいけないことが提起されていると思えます。それにより内容も相当違ってくる面もありますので今後ともさらに議論すべき問題ではないかと思って聞きしました。

委員

- ・ 皆さんからいろいろな意見が出ましたが、世界都市農業サミットと銘打った部分で、そこに引かかる部分があるのかなと思います。しかし、当初は大それた考えではなかったと思います。練馬の農業に対して、どのように皆さんが誇りを持ってやってもらえるかということに視点を当て、世界ではこのようなこともやっているという点を見てもらい、そしてまた練馬ではこのようなことをやっているというものを見てもらう、それがまず根底にあったと思います。
- ・ そして、このようなサミットを立ち上げるのに当たり、最初からグローバルな大きなことをやろうとしてもなかなかできないと思います。まして練馬区だけですと。逆に言えば、練馬区を発信拠点として見てもらい、そしてまたその中に練馬区農業者自身が自分たちの取組がよかったのかどうか、そしてまたこれからどのようにしていこう

かという話をしていく部分もあると思います。

- ・ そういう意味も考えながら一つ一つ進めていく、最初は小さくても、世界都市農業サミットという名称を使うことにより多少の注目が集まります。2回目、3回目と継続的にやっていく中で、いろいろなところに取り組み、こういうふうにしていこうという形が一つにあっていいと思います。
- ・ 最初からあまり大きなものを打ち上げて、練馬区だけでできるのかという不安があります。やはり練馬区のできる範囲でやっていこうという形が一つにはあったわけですから、それを基点としてやっていくというのが必要ではないかと思います。
- ・ 我々は、準備会のときから、農業者がよそに置かれてはいけないと思っていましたが、農業者が自分たちの中でこういうことに取り組んでいく部分と、練馬区が取り組む部分をみんなが認め、練馬の農業をどういうふうにしていこうかという考え方になればと思っていました。
- ・ このため、余りにも大きな話になると、2年後の開催が難しくなるのではないかと気が致します。いろいろな関係団体や都市との調整を考えると、その準備段階だけで2年や3年過ぎてしまいます。とりあえずは、1回小さくてもいいから開催し、どのようなことができたかという検証から始めていく必要があるのではないかと気が致します。
- ・ 余りにもグローバルな話になっていくと、それこそ都市間の話し合いが必要となり、東京都や国を巻き込んだりしていくと、開催がいつになるかわからないのではないかと気が致します。
- ・ このサミットについて、2年程前に最初にお話をいただいた際には、おもしろい考えだなと思いました。確かに、ただの都市農業サミットだけではダメであり、練馬区だけで開催するのでは発展性がないことから、さまざまな国にも見てもらうことが必要です。これからの世界では日本のような人口減少社会、そして発展途上国ではこれから人口増加社会という中で、さまざまなものが見えてくるのではないかとこの部分があり、その辺を考えながら持続的にやる必要があるのではないかと思います。
- ・ 今回は、2年後の開催となりますので、小さくてもいいので、そのように開催し発信する中で、検証を重ねながら、次回についてプランを立てていくというのも必要ではないかと思います。
- ・ 皆さんの意見は当然ごもっともなのですが、まず立ち上げてやってみないことには、何ができるかということとはわからない中で、あまりにも計画ばかりがいろいろな形で膨らみ、実際に開催する段階で、今のオリンピックじゃないですけども、国や都がお金出すようなことになりかねない部分があります。まずは、現場の予算の範囲でできるものを開催し、今度は東京都にお願いしよう等、次のステップについて検討していければよいと思います。そういうことをきっかけとして、この1回目ができればと思っています。

委員

- ・ 今の話に関連して、練馬区見ていると、練馬にいるから気がつかないですが、海外の方から見たら、既に価値のあるものが練馬区の農業の中に存在すると思います。体験農園も然りですし、無人の自販機で野菜を販売していることも、海外では考えられないと思います。そういう練馬の農業に係る仕組みについて一度洗い出し、こういうものがあり、これを海外の人に向けて紹介したらどういう価値を見出してくれるか等、そういうことを検討する場をできたら持ちたいなと思いました。そこから、それをベースにして、この先どのような新しい取り組みができるかについて検討するために、まず足元を固め、次に先をみるようなことが必要ではないかと思います。委員がおっしゃったように、あまり欲張って広げていくのではなく、まず自分たちの持っているいいものを一回洗い出してみるとよいのではないのでしょうか。
- ・ 例えば、練馬区の中で、「まちゼミ」というものを開催しています。参加している商店の中には、自分たちの作っている野菜を供給してくれるところもあると思います。また、越後屋委員のところでは、ワインを作っていますが、ワインジャーナリストによれば、ワインメーカーとしてだけでなくコミュニティになっていると評価していました。つまり、ワインは確かに求めてワイナリーに来るんですが、加えて皆さんが集まる場にもなっています。この点もひとついいところだと思いますし、そういったものを洗い出していくと、練馬区で都市農業がどう生かされているかということがわかるものが見えてくるのではないのでしょうか。
- ・ その点をスタートポイントにして、世界へ向けてどう発信するというのが見えてくると共に、都市農業のあり方として練馬型というのが一つ出てくるのではないかと思います。

委員

- ・ まずは自分たちのところで考え、その中でいいところや課題、仕組み等について洗い出しをしていくことは非常にいいと思います。
- ・ また、先ほどから意見のあった分科会についても、準備会の時から出ていたと思いますし、いくつかテーマをあげ、早い形で分科会を進めていきたいという意見もあったと思いますので、その点を踏まえ効率的に進めていただければと思います。分科会について検討していく中で、具体的に問題や課題が出てきた段階で、初めて海外の人に対してヒアリングなりをしていくことになると思いますが、まずはディスカッションのアジェンダを決めることが先決かなと感じています。少し漠然としています以上です。

委員長

- ・ 今までのご意見の中を踏まえ、事務局からお願いいたします。

事務局 都市農業課長

- ・ グローバルについてどのように考えるかという点について議論いただきましたが、できれば事務局としては、今までのものをしっかり押さえ、そして新しい取組を作る、または、考え、実践していき、モデルとして出していくことが、日本もしくは世界の都市のさまざまな問題の解決につながるのではないかと考えたことを、副委員長からお話しのあった、なぜ練馬でサミットを開催しようと思ったかという原点に据え、立ち上げました。できれば、この立ち位置についてご了解いただければと思いながら、委員の皆様のご意見を頂いております。
- ・ そして、単にひとりよがりになるものではなく、しっかり私どもも東京の38自治体と繋がっていますし、近隣の県の都市農業やっている市、皆さんともつながっております。そういった繋がりを生かして、「これがモデルだ」「これが次の取組だ」というところを出していけるような、そんなものにできたらいいなと思っています。
- ・ 特に分科会についてのご意見を多々いただきましたので、テーマを決めて、新たな取組について議論しやすいシンポジウムの形も考えていかなければと思っています。

委員

- ・ 農業者として、今回のサミットで私が一番期待するのは、やはり海外の人たちとの交流です。同じ都市近郊で農業に取り組み、どのような違いがあるのか等、非常に私はその点に興味があります。
- ・ もう一つ、サミットというところがかなり広範囲に広がっていきます。都市で暮らす市民のうち、農地周辺の市民の人たちは、小さな農家の庭先販売の野菜を購入したり、そこで農家と交流する等、さまざまなことが生まれていると思います。そこに焦点を当てていくと、農家から見た視点とはちょっと違った方向が見えるのかなという気がします。このため、どこに焦点を当てていくか、分科会でいろいろなことを議論するのもよいですが、どこか一つ大きく焦点を当てていくのは、やはり市民との関わりといった点だと私は思います。

委員

- ・ サミットの最後にサミット宣言がつくられると思いますが、これが多分最後の成果物として残るものになると思いますので、それに何を書いていくか、何を議題とするかということが一番重要になってくるのではないかと思います。イベントはイベントとして、4日間で終わってしまいますが、宣言は少なくとも次の会まで残っていくものですので、その宣言の中にこういった指標をどのような視点で盛り込んでいくのか検

討する必要があります。私自身、ニューヨークのマンハッタンに3年住んでいましたが、その当時マンハッタンで農業は見たことがありませんでした。マンハッタン周辺部で農業やっているということはまずなく、農業というと少し離れた田舎でしかない、そこを都市農業と果たして言うのかどうかもわかりません。

- ・ パリも多分そうだと思います。中心部では農業は行われておらず、周りに農業地帯が広がっていました。今考えると、それは多分都市農業という印象も受けますが、日本の都市農業振興基本法の切り口から考える都市農業と、世界の切り口から考える都市農業とは全然違うと思います。そういう意味では、何か新しい切り口でこの都市農業とはどのようなものなのかについて、切っていったほうがいいと思います。日本だけではなくて、世界の方に理解をしてもらえそうな宣言みたいなものができるのではないかなと思います。
- ・ その中でも、日本の特徴である、例えば防災や環境問題、体験農業等の観点も入れ込みながら、世界から参加される皆さんが納得できるような宣言をつくり上げていき、それが周りに影響を与え、または取り上げられインパクトあるものになれば、恐らく次の回にもつながり、サミットが有意義なものになるのではないかと思います。宣言に何を書いていくのかといった点についても、いろいろと議論を早くしておいたほうがいいのではないかという気はしております。

委員

- ・ 防災面等さまざまなアピールポイントがあると思います。生産者の中には、学校給食へ農産物を提供している方もいらっしゃいますが、そうした取組は食育に繋がるのではないかと思います。未来の子どもたちが、野菜を通じて農業を考える。小さいころの体験というのは大人になっても覚えているものだと思います。自分も小さい頃に芋掘りしたこと等を鮮明に覚えているので、他の都市でやっている人がいるのかちょっとわからないですが、そういうところはすごいアピールポイントになるのではないかと思います。

委員

- ・ 先ほど、おっしゃったとおり、世界に届けるということは必要ですが、そのスタート地点として身近なところから発信していかなければと思います。将来的には、このサミットに対する理解も地域住民の間で高まり、より大きなものへとしていけば、より成功し、ひいては農業に対する理解も高まっていくのではないかと考えています。
- ・ また、かつては相続税を払うのが大変だからと畑を手放したりする人もいました。また、平成3年に生産緑地法が改正されたことにより、農地がずいぶん減りました。かつては生産部会もありましたが、今やその規模は4分の1、5分の1になり、市場に通う人も少なくなりました。今は、生産者が自分でやっている無人販売とか、あとは

農協の本体や、直売所のほうへみんな出しているということになっております。

- ・ 昔自分たちがやっているときは、何でもかんでも練馬は大根で始まり、キャベツになりという生産をしていましたが、生産緑地法が改正されてからはほとんどバラバラという言い方もおかしいですけれども、個々で生産をしています。近所の人たちの中には、小さな鉢で野菜を作っているから見てほしいという方もおり、毎年作り方がうまくなっており、早くから種まき、今はサヤエンドウが1メートル程伸びる等、真剣に取り組んでいる市民の方もいらっしゃるようになりました。
- ・ また、区民の皆様には、体験農園や区民農園に参加できるようにし、そしてまた理解が深まることで、地域全体が、サミットに参加していただければ最高ではないかなと思っております。

委員

- ・ ご意見お聞きしまして、そのとおりだと思っております。それと、今回のサミットは、都市農業の今後の発展につなげるということが趣旨になっていきますので、その点どうするのかと思っております。確かに4日間のフェスティバルとして終わった後には、私も農業者としては、学ぶ機会やさまざまな交流する機会があると、そこから自分のものにしたいなと思うわけです。また、世界ではどのようなものつくるのか等、そういう点にすごく興味を持っています。ニューヨークへ行ってもどこへ行っても観光で終わってしまうため、生活に密着した人たちが、まして私たちと同じような都市農業やっている方たちがここに集まり、いろいろなご意見いただけるということは、すごく有意義で、今後の東京の都市農業のためにも、自分自身のためにもなっていくのではないかなと少し期待しています。交流があればより楽しく、繋げていく意義もあるのではないかと思います。
- ・ 各農家本当に一つ一つ全部違いますので、何を洗い出すか、いいものを洗い出して、一つ一つつなげていけばいいものになるんじゃないかなと思います。そんなところです。

副委員長

- ・ 少し別の話になりますが、都市の選定やお話をうかがう人選の際に、どのような報告であっても学べることは多くありますが、都市農業の場合、制度や土地所有の問題等がその在り方を規定する面も多いので、来ていただく人の中には、そういった点も頭に入れ報告していただける人が含まれていることが大事かと思っております。人選はなかなか思い通りにいかない面もありますが、その辺も少し努力をしていただきたいと思います。

委員

- ・ 今、話を聞いていて思い出したのが、一昨年になりますが、公園の管理運営に関する

世界のシンポジウムを開催いたしました。その際もよく似た形で開催いたしまして、まず3つの分科会を開催し、最後の全体のシンポジウムでとりまとめ、宣言という形で発表致しました。私も分科会をひとつ担当しましたが、最初から分科会の座長等が相当きちっとまとめ上げる意識を持っていなければ、最後の宣言まではたどり着かないです。各国制度も異なり、実情も異なると思いますので、その時は2日間の開催でしたが、今回は1日半シンポジウムみたいな形がありますので、この内容全部埋めていこうとすると、大分きちっと考えていかなないとできないと思いますので、その辺を十分考えておいていただきたいと思います。

- ・ また、主催という言葉がまだ出てきていないですが、主催は一体誰が行うのでしょうか。この推進委員会になるのか、練馬区になるのかという主催の問題をきちっと解決しておかないといけません。公園の管理運営に関するシンポジウムの際も、実行委員会が主催となりましたが、結局どこかの団体がすごく汗かかないといけません。特に、海外の方々が来られたときというのはすごい大変でしたので、その主催者の形式と事務局は誰がやるのかというあたりを、きちっと詰めていってもらいたいと思います。

事務局 都市農業課長

- ・ どういった体制を組むかについては、もちろんこの推進委員会委員の皆様方のご協力をいただきながらということではありますが、練馬区で主催という形で進めていくことを考えております。ご協力よろしく願いいたします。

委員長

- ・ 一応一通り皆様方一言は最低限ご発言をいただいて、もしご発言いただいていない方がいらっしゃいましたら大変申し訳ありません。まだ、10分、15分ほど時間がございますので、皆様方のご意見を拝聴された上で、ご意見頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。
- ・ 私も幾つか皆さん方のご意見頂戴しながら、感じたことにつきまして若干コメントさせていただきたいと思います。順不同で恐縮ですけれども、まず、確かに練馬区が主催なのかもしれないですが、手足も含めて全部練馬区が行うというように考えないほうがいいのではないかと思います。簡単に言えば、イベント開催等に手慣れた方々というのがいらっしゃいますので、そういうところに例えばイベント開催部分のみ適宜外部委託する等、全部自分たちがかけ合わなければいけないというように考えない方がよいという印象を持っています。
- ・ 世界中の全ての都市を隈なく制度も含めて見てきたというわけではないので、例外的な話も当然あるかと思いますが、私が理解する限りには、例えばアメリカやヨーロッパの主要な国では、市民農園やコミュニティガーデン、アロットメント、クラインガルテン等とさまざまな言い方がされますが、市民が本来農地ではないところで農

作物をつくって楽しんでいるというのはたくさんあります。

- ・ それから、最近になって、いわゆる起業家、アントレプレナーたちが新しい産業の一つのような形で農作物を栽培するようになったというものも、事例的には限られていますが、存在します。しかし、いわゆる日本のように第一次産業を営んでいるという農業者が都市の中に農地を持ちながら農業経営をしているということになると、欧米では存在しないと断言して、多分間違いないと思います。
- ・ 農業者が都市の中で農業を営んでいるという実態が世界のどこにあるかという、多くの場合は発展途上国です。アフリカ、東南アジア、南米等の発展途上国には存在します。しかし、発展途上国は、例外がございますが、多くの場合、制度的にそれがきちんと担保されているものではなくて、極論すれば、ゲリラ的に制度のすき間を縫って農業をしているケースが大変多い。
- ・ 言い方を変えますと、制度にきちんと準拠しながら第一次産業が都市の中で営まれているという事例は、私が知る限りは、日本の都市を除いてはほとんど見ない。全く存在しないとまでは言いませんが、ほとんど見ないと断言してしまって、まず間違いないのではないかと思います。
- ・ もちろん東アジア、台湾、あるいは韓国、こうした国々にそういう事例がないわけではないんですが、日本ほどきちんと制度に準拠しながら、かつ都市の中で農業者が農地で農業を営んでいるという実態は、ほぼないと言っては過言ではないと思います。それが日本の都市農業であって、世界的に見ると極めてユニークな姿であるところを、練馬を初めとした日本が自覚するということが、まずは出発点なのではないかと思えます。言い方を変えると、この世界都市農業サミットがそれを自覚するチャンスになるということも、大きな意義の一つなのだろうと思います。
- ・ そのことを理解していく上で、足元の資源等を洗い出しながら、かつまた分科会としてどういうテーマを特に議論しようかということになるべく早い段階から見きわめながら、主語である「練馬が」広く世界を視野に入れつつ、海外との交流などを通じて、自らの魅力やポテンシャル、日本における課題を確認するというのが、この世界都市農業サミットであると思います。
- ・ つまり、いわゆるサミットのように、ホスト国が会場を用意し、ディスカッションはそこに来た国々がお互いに行う形式ではないと思います。あくまで主語は練馬であり、「練馬が」周辺の自治体や東京都、日本、さらには世界を視野に入れながら、自らの魅力やポテンシャル、そして課題を確認していく姿というのが、恐らく皆さんから本日いただいたご意見の大半だったのではないかというふうに拝聴した次第であります。
- ・ ただし、「練馬が」といったときに、練馬の農業者なのか、あるいは練馬区民なのか、あるいは市民なのか、その辺りについては当然さまざまな議論がこれから必要であろうかと思えます。また、練馬が世界に、あるいは他の自治体も含めて、日本、さらには世界にといったときに、その人たちとしてどこまでを巻き込んで考えていくか、こ

の辺は当然これからいろいろな議論が必要になってくるのかなということです。

- ・ つまるところ、この会議が2年後に開催された結果として、「お前たちすごいな」「お前たちの真似をしたいな」「練馬はいいところだな」「世界の先端を走っているんじゃないか」と世界から言ってもらいたいということです。
- ・ 反対に、練馬としては、そんなに自分すごかったのかということを確認しつつ、その他のさまざまな事例等を聞く中から、「そういうことは考えてなかったな」「そういう発展方法ってあったんだな」「むしろこの辺は自分たちの弱点だったが、そういう方向性はあるんだな」「こんないろいろなアイデアがもらえるのかな」と、そのように感じてもらえる機会となると思います。皆さんのご意見拝聴しながら思った次第でございます。
- ・ 予定の時間になりましたので、最後に事務局の方からお願いいたします。

3 その他

事務局 都市農業課長

- ・ 貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございました。第三回推進委員会では、本日のご意見を盛り込んだ形でご提案できればと思っています。よろしく申し上げます。
- ・ では、その他ということで、事務局からご連絡です。次回の日程につきまして、本日の時点では、4月10日14時から開催させていただければと思っております。また、改めてご連絡申し上げます。ありがとうございました。

4 閉会

委員長

- ・ どうもありがとうございました。次回は4月10日14時ということで、できましたらば手帳のほうにご記入をお願いしたいと思います。
- ・ では、皆さんからほかにございませんでしょうか。
- ・ 特にないようでしたら、お約束のとおり11時5分前ということでございますので、本日の会議を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。